

学 位 論 文 要 旨

氏 名 岡山万里

題 目 美術館における幼児期の鑑賞体験とその援助

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本論文は、生涯学習社会において人々が美術館を有効に活用しながら学び続けるために、幼児期に美術館で鑑賞する意義と、幼児期の子どもが美術館で鑑賞する際の望ましい援助について論述するものである。

第1章では、幼児期の美術鑑賞に関わる諸問題を検討し、課題を明確にした。第1節では研究の背景として、生涯学習社会における美術館を含む博物館の重要性と、幼児の美術館利用に関わる諸問題を、文献やデータをもとに検討した。第2節では、幼児期の美術鑑賞に関わる先行研究を概観した。倉橋惣三以来、幼児のための芸術教育には関心が持たれているが、幼児期の美術鑑賞について十分な研究や実践がなされていないのが現状である。現在確認できる先行研究から、本論文と関連あるものを概観した。第3節では、研究の目的と方法について述べるとともに、本論文の構成を示し、全体像を明らかにした。

第2章では、岡山県倉敷市の大原美術館で行われている幼児対象プログラムをもとに、事例研究を行った。第1節では、大原美術館の成り立ちと同館が行っている教育普及活動の概要、幼児対象プログラムの概要と特徴について論述し、同プログラムを事例とすることの妥当性を示した。第2節では、言語を通じた鑑賞である絵画鑑賞プログラム「対話」、彫刻鑑賞プログラム「対話」、絵画鑑賞プログラム「お話作り」について、次のように考察した。(1)絵画鑑賞プログラム「対話」で、職員からの発話は、幼児に対する人的環境からの言語的応答であると同時に、絵画という物的環境からの応答に代わるものとなる。(2)彫刻鑑賞プログラム「対話」における職員からの発話は、絵画鑑賞プログラム「対話」と同様、幼児に対する職員と作品からの応答であることに加え、彫刻の物的応答性を引き出すものとなる。(3)絵画鑑賞プログラム「お話作り」で、幼児は、絵画から物語を作ることを通し、生活体験と想像力を加味しながら能動的に絵画鑑賞をする。第3節では、制作を通じた鑑賞である、絵画鑑賞プログラム「模写」、彫刻鑑賞プログラム「模刻」「自由制作」について、次のように考察した。(1)幼児は「模写」を通じ作品と対峙し、内容物の確認のみならずその表現様式や絵画の構成諸要素を認識する。(2)彫刻鑑賞プログラム「模刻」「自由制作」では、制作の過程において、鑑賞すると同時に、彫刻の構成要素を再現することの困難さを

体験することから、彫刻という表現形態の特質の一部に気付く。第4節では、美術館を知る活動である「全体鑑賞」「美術館探検」について、次のように考察した。(1)「全体鑑賞」で、幼児は、体感などを通じ、直接的に美術館と触れ合う。このような体験を通じ、美術館へ親しみを持つ。(2)「美術館探検」で、幼児は、「探検」という演出を通じ、幼児なりに美術館の機能を理解し、美術館に親しみを持つ。以上のような体験から、繰り返し訪れたいという将来へ繋がる美術館との関わりの端緒を得る。第5節では、幼児対象プログラムを経験した児童生徒らへの聞き取り調査を通して、次のように考察した。プログラムの記憶は断片的なものに留まるが、美術館という場で原作品を見ることでしか得られない諸要素と共に記憶され、美術館への親しみに繋がっている。

第3章では、研究の総括として、第2章での事例研究をもとに、美術館における幼児期の鑑賞体験の意義と望ましい援助について、総合的に考察し論述した。第1節では、意義について、次のように論述した。美術館で鑑賞する独自性は、美術館固有の要素、すなわち建築物としての固有の要素、キュレーション、原作品しか持ち得ない要素に触れることである。既成概念から自由である幼児期に、美術館固有の要素に触れることに意義がある。第2節では、望ましい援助について、次のように論述した。援助は、[1]幼児が美術作品や美術館と、遊びにより多様な仕方で応答し合えるものであり、その応答の中で[2]思考を巡らすことができるもの、[3]想像力を発揮できるもの、[4]体を使うもの、[5]友達と共有・協力できるものが望ましい。第3節では、美術館における幼児期の鑑賞の普及と、研究の今後の課題について論述した。普及のために、保育者養成段階において幼児期の鑑賞の意義と援助方法を理解すること、また美術館職員が同じく意義と援助方法を理解することを提案した。

本論文の構成を明らかにするために、以下に目次を示す。

## 第1章 美術館における幼児期の鑑賞体験に関する諸問題と研究の課題

### 第1節 生涯学習社会における博物館の重要性と幼児期の美術館利用

### 第2節 幼児期の美術鑑賞に関わる先行研究

### 第3節 研究の目的と方法、論文の構成と用語の統一

## 第2章 美術館における幼児期の鑑賞体験の事例研究

### 第1節 大原美術館の教育活動と幼児対象プログラム

### 第2節 言語を通じた鑑賞

### 第3節 制作を通じた鑑賞

### 第4節 美術館を知る活動

### 第5節 幼児対象プログラム経験者への聞き取り調査

## 第3章 美術館における幼児期の鑑賞体験の意義と望ましい援助

### 第1節 美術館における幼児期の鑑賞体験の意義

### 第2節 美術館における幼児期の鑑賞体験の望ましい援助

### 第3節 美術館における幼児期の鑑賞体験の普及と今後の課題

## 引用文献